

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：33919

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00122

研究課題名(和文)日本の伝統演劇における「夢」の表象の研究：比較演劇の観点から

研究課題名(英文)A Study of the Representation of Dreams in Traditional Japanese Theatre: From the Perspective of Comparative Theatre

研究代表者

岩井 眞實 (Iwai, Masami)

名城大学・外国語学部・教授

研究者番号：00221789

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本の伝統演劇(能、人形浄瑠璃、歌舞伎)に見られる「夢」の表象の独自性を、比較演劇の観点から通時的にあきらかにするものである。

3名の研究者は、延べ4度の国際学会での発表を行い、能、人形浄瑠璃、歌舞伎それぞれの観点から「夢」の表象について論じてきた。一連の考察の結果、能は語りの枠構造によって夢の時空間を創造的に体験させる、すなわち舞台上に表象しないのに対し、歌舞伎・人形浄瑠璃では装置や大道具によって夢の時空間を直接的に舞台上に表象するという性格が明らかになった。

これらの知見をもとに、2、3年後には英語による研究書を刊行する予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究代表者および研究分担者は、いずれも本研究によって得られた知見を国際学会にて発表している。これまでかえりみられることのなかった演劇における「夢」の表象について、その成果をひろく海外に問うた。文学における夢の表象に関しては、江口孝夫『日本古典文学 夢についての研究』(風間書房、1987)があり、夢の精神史一般については石橋臥波『夢』(宝文館、1907)をはじめとして古川哲史『夢 日本人の精神史』(有心堂、1967)などがある。しかし、これらは文字に定着した材源をもとにしており、文字をさらに身体によって立体化した演劇というメディアの特性にまで言及していない。本研究の独自性をもつ所以である。

研究成果の概要(英文)：This study aims to diachronically clarify the uniqueness of the representation of "dreams" in traditional Japanese theater (Noh, Ningyo Joruri, and Kabuki) from the perspective of comparative theater.

The three researchers have made a total of four presentations at international conferences, discussing the representation of "dreams" from the perspectives of Noh, Ningyo Joruri, and Kabuki. As a result of this series of discussions, it became clear that Noh plays creatively experience the time and space of dreams through the frame structure of the narrative, i.e., they are not represented on stage, whereas Kabuki and Ningyo Joruri directly represent the time and space of dreams on stage through devices and large props.

Based on these findings, we plan to publish a research book in English in a few years.

研究分野：演劇学

キーワード：演劇 伝統演劇 比較演劇 夢 表象 能 歌舞伎 人形浄瑠璃

1. 研究開始当初の背景

演劇研究における最大のテーマのひとつは「リアリズム」であろう。リアリズムはたんなる写実主義でも、ましてや実物主義(アクチュアリズム)でもなく、様々な表象をもつ。たとえば最もリアリズムから遠いと考え得る不条理演劇にすら、ハロルド・ピンターのように「リアリズム的状况」と「状况の根本的不条理」が矛盾なく同居する例を見ることができる。逆に日本の能や人形浄瑠璃のように、リアリズムから最も遠い(前者は抽象的表現、後者は人形による表現)演劇からリアルな現実を看取することはそれほど困難ではない。つまり「リアリズムとは何か」という命題への結論は出ていないのである。

ひるがえって、リアル(現実)の諸相を裏から照射しうるものに「夢の表象」がある。文学や演劇に効果的に利用されてきた夢という素材は、リアリズムからの大胆な離脱であり、かつ深層心理と関わり、夢を介して人間存在への理解を促すしかけでもある。

本研究は、「リアリズム」への問題意識を背景としつつ、その対極にある夢の表象の分析を行う。むろん「リアリズム」研究を遠くににらんでいる。

2. 研究の目的

夢という人間にとって普遍的な現象を演劇として再現(表象)する場合、語りや上演の技法にどこまで普遍性があるのか、あるいは歴史的文化的固有性はどこに生じるのかという点について探究することが本研究の目的である。

日本の古代から中世にかけての文芸においては、夢は神託・予言といった機能を有していた。夢に関する先行研究が一致して述べるところである。中世の能においても「夢幻能」の語が示す通り、霊界からの人物による夢を表象することが一般的であると考えられている。しかし一方で「夢幻能」は近代あるいは西洋演劇的な見方であることもまた否定できない。こうした先入観を取り払った能の「夢幻」性について考察する必要がある。

いっぽう、近世の歌舞伎・人形浄瑠璃の夢の表象に関する先行研究はきわめて少ない。特に歌舞伎に関する夢の研究はまったく等閑視されてきたと言わざるを得ない。近世の演劇には大道具やカラクリ、さらに歌舞伎においては早替りなどといった演劇的装置が準備されており、これらと夢との先後関係、因果関係についてはつきとめられていない。こうした問題について探究することが本研究の目的のひとつである。

3. 研究の方法

本研究には、能においては謡曲によってその語りを分析する。人形浄瑠璃においては丸本(出版された台本)を、歌舞伎においては台帳と絵入狂言本および役者評判記をもちいる。これらはきわめてオーソドックスな文献研究の手法といっておく。

ただし本研究の独自性は、比較演劇学による分析にある。すなわちバロック的(非古典主義的)演劇や反自然主義的演劇との比較である。また、比較演劇学の視点を採り入れることにより、夢の表象の歴史的文化的固有性を明らかにする。

従来の能・人形浄瑠璃・歌舞伎研究は、各々の研究の枠組みの中で自足した結果、通時的・共時的な広がりを見失い、またテーマ的な研究に対する関心を忘れたかのようである。

本研究では、東西に共通する「異界」(another world)、変容(transformation)、周辺(periphery)、「劇中劇」(play within the play)などといった概念を用いて従来の枠組みを取り払おうとした。相応の成果は認められたと考えている。

4. 研究成果

横山(研究分担者)は2022年度アイスランド・レイキャビクにおけるIFTR(国際演劇学会)にて「Dream as a Narrative Device in Noh」を発表した。本発表は、能の語りにおける夢の表象について考察したものである。なお岩井(研究代表者)と小田中(研究分担者)もこの国際会議への発表を採択されていたが、新型コロナウイルスによる渡航制限(所属機関による)のため、かなわなかった。

岩井と小田中は、ベルギー・ヘントにて2023年8月開催されたEajs(ヨーロッパ日本研究協会)国際大会において、それぞれ「The dream in kabuki moving toward modern unconsciousness」(岩井)、「Japanese dream culture and the representation of dream in bunraku」(小田中)のタイトルで発表を行った。前者は、歌舞伎に現れる「夢の場」を分類整理し、夢幻的場面の表象が先行する過程で、人物の潜在意識が夢となるという近代への萌芽がみられることを指摘した。後者は、近松門左衛門をはじめとする人形浄瑠璃の夢の表象を比較演劇的視点から分析した。最終年度で能・人形浄瑠璃・歌舞伎に見られる「夢」の表象研究が出揃ったわけである。

なおこの間、研究代表者と研究分担者3名は、新型コロナウイルスによる自粛期間においてはzoomやE-mailを用いて情報交換し、2022年度は1度、2023年度は2度対面のミーティングを行っている。

その結果、能は語りの枠構造によって、夢の時空間を創造的に体験させる(夢の時空間を舞台

上に表象しない)ことがわかった。一方、近世演劇(人形浄瑠璃・歌舞伎)では大道具やカラクリによって、夢の時空間を舞台上に表象する。プロット上の必要から夢の場面が設定され、それを現前せしめるために大道具やカラクリが用いられたのか、逆に大道具やカラクリを見せるために夢の場面が設けられたのか、その関係性はあいまいである。しかし台本の悉皆調査の結果、後者の見解が有力であることが明らかになった。すなわち従来の夢の表象に関する諸説は根本から見直されなければならないのである。ただし、近代を目の前にした歌舞伎作品には一種フロイト的な夢の表象も見うけられることは記憶してよい。

なお、岩井はこれらの成果を論文「日本近世演劇における夢の表象」(『名城大学人文紀要』135)にまとめている。

また、本研究の成果は数年後に英語の研究書として上梓する(2026年度予定)。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 岩井眞實	4. 巻 3
2. 論文標題 The Mountain Summit cannot be Seen from Foothills	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本演劇学会英文紀要	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18935/ejstr.3.1_57	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小田中章浩、岩井眞實、横山太郎、田中里奈	4. 巻 3
2. 論文標題 Book review: A History of Japanese Theatre	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本演劇学会英文紀要	6. 最初と最後の頁 57-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18935/ejstr.3.1_57	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 横山太郎	4. 巻 88-4
2. 論文標題 能における掛詞と縁語の詩学 『井筒』を中心に（上）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 観世	6. 最初と最後の頁 46-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 横山太郎	4. 巻 88-6
2. 論文標題 能における掛詞と縁語の詩学 『井筒』を中心に（下）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 観世	6. 最初と最後の頁 30-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山太郎	4. 巻 5
2. 論文標題 ハタラク考 世阿弥以前の能における鬼の身体	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ZEAMI 中世の芸術と文化	6. 最初と最後の頁 82-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山太郎	4. 巻 29
2. 論文標題 日本の無形文化遺産政策の転換 文化庁文化審議会の言説を読み解く	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本空間	6. 最初と最後の頁 269-289
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小田中章浩	4. 巻 1
2. 論文標題 地域演劇との絆を作るために 「あしづえ」と「森の演劇祭」との関わりから	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 文化資源学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 3-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩井眞實	4. 巻 135
2. 論文標題 日本近世演劇における夢の表象	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 名城大学人文紀要	6. 最初と最後の頁 17-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 岩井眞實
2. 発表標題 地方から中央を、近代から近世を照射する
3. 学会等名 日本近世文学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岩井眞實
2. 発表標題 新WEB版「演劇百科大事典」の可能性
3. 学会等名 日本演劇学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩井眞實
2. 発表標題 The Dream in kabuki moving toward modern unconsciousness
3. 学会等名 EJJS (European Association for Japanese Studies) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小田中章浩
2. 発表標題 Japanese dream culture and the representation of dream in bunraku
3. 学会等名 EJJS (European Association for Japanese Studies) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 横山太郎
2. 発表標題 Dreams as a narrative device in noh
3. 学会等名 IFTR (International Federation for Theatre Research) (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 小田中章浩	4. 発行年 2023年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 436
3. 書名 戦争と劇場 第一次世界大戦とフランス演劇	

1. 著者名 岩井眞實	4. 発行年 2022年
2. 出版社 文化資源社	5. 総ページ数 585
3. 書名 近代博多興行史 地方から中央を照射する	

1. 著者名 Akihiro Odanaka and Masami Iwai	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 228
3. 書名 Japanese Political Theatre in the 18th Century: Bunraku Puppet Plays in Social Context	

1. 著者名 井上理恵・五十殿利治・岩井眞實・林廣親・安宅りさ子・永田靖	4. 発行年 2021年
2. 出版社 社会評論社	5. 総ページ数 340
3. 書名 島村抱月の世界	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小田中 章浩 (Odanaka Akihiro) (70224251)	大阪市立大学・大学院文学研究科・教授 (24402)	
研究分担者	横山 太郎 (Yokoyama Taro) (90345075)	立教大学・現代心理学部・教授 (32686)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------